

推薦調書（実装部門）

表彰区分	市（指定都市・中核市・施行時特例市等を除く）	推薦都道府県	奈良県
地方公共団体名	奈良県宇陀市		
取組名称	メタバースを用いた産業振興～あつまれ便利な田舎～		
連携自治体、企業、団体等	伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）、市内事業者		
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合の分野） 中小企業
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○ CTC が提供するメタバース（仮想空間）において、参加者がアバター（分身）となって、メタバース内を歩き回り、先輩移住者に直接インタビュー等を行い、交流することで便利な田舎を感じてもらえるオンラインイベント。先輩移住者は、都市部から市内に移住し、起業等により事業展開している、または起業に向けて活動している人を選定。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響により地方が再評価されるなど、都市部から地方への流れが浸透し、都市生活者から市役所へ移住の問い合わせが増えている。しかし、人里離れた場所で農業しながら古民家カフェを 300 万円程度で改修し開業したい、など田舎暮らしやローカルビジネスに対する認識のずれを感じていた。都会生活を知る「先輩移住者」でもある市内事業者等に直接インタビュー等ができるイベント実施をすることで、そのギャップを埋め、宇陀市での生活に関心を持ってもらい、つながりを持って帰ってもらうようなイベントを企画。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○ 「ボツンと一軒家で交通の便が良く、生活インフラも整った古民家希望、購入 300 万円もしくは賃貸月 3 万円。カフェ・農業をしながら生計を立てたい」というような問い合わせをよく受ける。理想のみをもって田舎暮らしをスタートすることがないよう、メタバース空間を活用して、田舎暮らしや起業について具体的に知ってもらうことで認識のずれを解消したい。</p>		

<p>デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）</p>	<p>令和4年3月24日に昼の部・夜の部でイベントを実施。それぞれ20余名の参加があった。イベント実施後、参加者同士がSNSで事業者等とつながる等の成果を得た。</p> <p>参加者からは「先進的な取り組みに前向きであることから、若い世代を受け入れる準備がある自治体であるように感じた」「身なりを整えることなく参加できた」「定期開催をしてほしい」などの声があった。</p>
<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>ウェブ会議システムを使ったイベントでも自宅にいながら、対面のようなコミュニケーションが取れるが、メタバースを用いるとより「相互性」が増す。つまり、1対多人数ではなく、多人数対多人数で、聞きたい人に聞きたい内容を直接聞くことができる。</p> <p>市内で事業展開している人等にとっても、通常のオンラインイベントとは違い、一人一人を認識したうえでコミュニケーションが取ることができ、事業の幅が広がる。</p> <p>イベントでは、上記メタバースの特長を生かすため、自己紹介や自由行動の時間を十分設けるよう工夫。自己紹介の時間を設けたことで事前情報を得ることができるため、ジビエ、林業、カフェなど、参加者が聞きたい内容を誰にするべきかわかりやすくした。</p> <p>最後の15分は事業者自身も自由行動をしてもらうことで、事業者同士の交流も図った。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>参加者に市内事業者等とのつながりを持ってもらうことで、関係人口の創出や事業のコラボ化につながれば、との展開を期待。さらに、定期開催等により将来的な移住者増、そしてそれに伴う空き家・空き店舗の活用につなげたい。</p>

「メタバースイベント」概要図



▲オリエンテーションの様子



▲事業者ブースで個別インタビュー



▲エンディングの集合写真

【奈良県宇陀市】



▲今夏完成予定の移住体験施設



▲市内で起業した事業者の店舗